

第1677回例会

8月21日(木) 雨 12:30~13:30 松魚亭

1. クラブフォーラム  
テーマ：職業奉仕が第一義ではないか
2. 出欠  
出席39名 欠席20名  
出席率66.10% ビジター5名
3. 来訪者(敬称略)  
富山みらいRC 多賀俊彦  
金沢RC 蚊谷八郎 織田義夫  
金沢南RC 中谷啓一  
みなとRC 堀川善昭
4. 幹事報告  
・富山みらいRCより地区大会登録のお願い  
・新会員紹介 多々俊和君  
・相模原南RCより水害見舞金として10万円拝受致しました。  
・本日例会終了後、理事会開催
5. 皆出席顕彰  
7ヶ年 的場晴次君
6. お誕生日祝い(敬称略)  
1日 奥田久雄  
7日 岡田 進  
12日 二塚長生  
13日 五十里英弘  
22日 松田忠秋  
24日 杉原光彦

ニコニコボックス

富山みらいRC  
地区大会への登録をお願いいたします。  
磯野(洋)君、中村(實)君  
新会員、多々俊和君の入会を祝して。  
多々君 本日から入会させて頂きました。よろしくお  
願い申し上げます。  
卯野君 多々俊和君の入会を祝して。  
的場君 7ヶ年皆出席顕彰、有難うございます。  
瀧川君 本日のクラブフォーラムも、前回同様素晴ら  
しいご意見を願っています。  
松田君 誕生日のお菓子を戴きました。お陰様で、  
元気で満〇〇歳を迎えました。  
五十里君、杉原君  
誕生日のプレゼント、有難うございました。  
小間井君 体のオーバーホールのため、NTT病院に  
入りました。少し休みましたが、リフレッシュ  
致しました。  
合計20,000円(累計102,000円)

第1678回例会 早朝例会

8月28日(木) 晴れ 6:30~8:00 月心寺

1. 例会  
6:30 点鐘  
6:45 坐禅指導  
坐禅  
7:10 朝課(朝のお勤め)  
法話  
7:15 小食(朝食)  
呈茶  
8:00 解散
2. 出欠  
出席27名 欠席32名  
出席率45.76%

理事会報告

平成20年8月21日(木) 出席者18名

- ◆ 審議事項
  - ① 納涼例会決算書報告
  - ② 早朝例会の件  
6時30分~8時 月心寺にて
  - ③ 京都洛北RC創立35周年例会の件  
18名参加 ※シングル追加料金はクラブ負担とする
  - ④ 金沢北RC 35周年例会の件  
10月2日(木) 17時より 松魚亭にて
- ◆ その他

第70回 北遊会麻雀大会成績

平成20年8月20日(水) ソシアルにて

- 優勝 磯野 進吾  
第2位 駒栄 敏雄  
第3位 錢亀 賢治  
B B 高島 聡  
参加者  
汐井俊彦、滝川真人、  
渡邊 聡、濱井弘利



「北遊会」へのご入会をお待ちしております。  
会長 汐井俊彦 幹事 磯野進吾

8月クラブ日誌

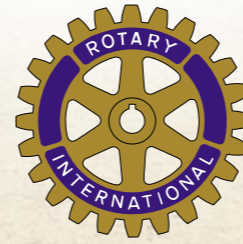
- 7日(木) 納涼例会 白糸川床にて  
21日(木) 8月定例理事会 松魚亭にて  
28日(木) 早朝例会 月心寺にて

講話予定

- 9月18日(木)  
徳田秋聲記念館見学  
9月25日(木)  
クラブフォーラム



会 長：磯野 洋明	S A A：中村 芳明	例会日：木曜日 12:30~13:30
会長エレクト：安宅 雅夫	会 計：中田 龍一	例会場：松魚亭 金沢市東山1-38-30
副 会 長：畠 善昭	広報委員長：小泉 幸雄	TEL<076>252-2271 FAX252-2273
幹 事：中村 實博	会 員 数：60名	事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所内
副 幹 事：汐井 俊彦	クラブ設立：昭和48年10月3日	TEL<076>222-2525 FAX224-2882
		E-mail:k-kitarc@angel.ocn.ne.jp



金澤北ロータリークラブ



## 早 朝 例 会

例会委員長 中 村 芳 明

過去には行われていた久しぶりの早朝例会、今回は、勝田浩之会員が住職を勤める月心寺で行いました。参加者には駐車台数に制限があるため、松魚亭に集まり乗り合わせで向かう方々と、徒歩で参加していただく方々とで、早朝の6時30分から、30名の出席をいただき開催しました。

開会は、磯野洋明会長にお輪を鳴らしていただき始めました。いつもの銅鑼とはまた一味違った、お寺さんでの開催に相応しい開会の点鐘でありました。

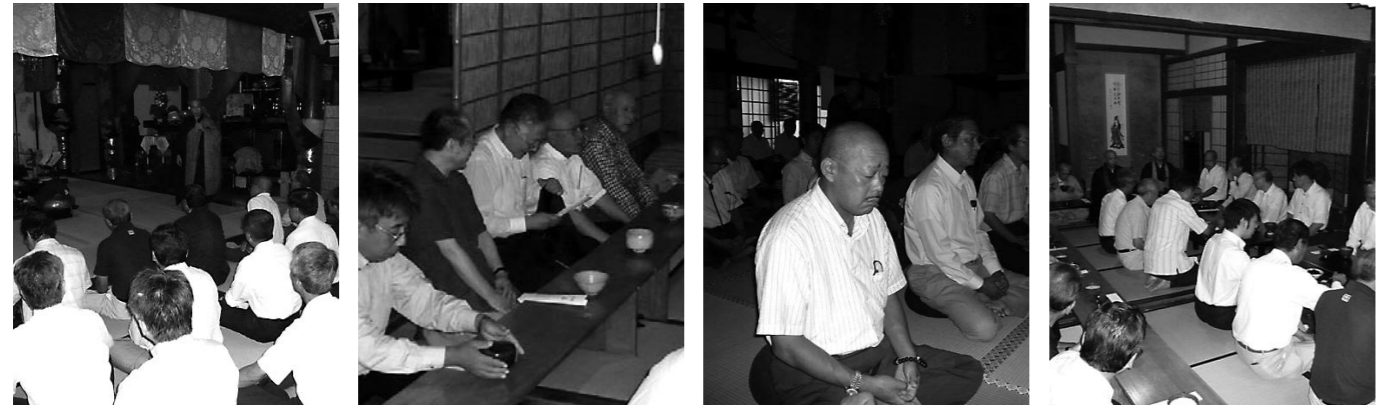
座禅は、勝田住職と荒井天徳院副住職による座禅指導を受け、鐘の合図で一同座禅を始めました。お寺の中は静まり、蟬の鳴き声だけが聞こえる座禅の時でした。警策で肩を叩いて頂きましたが、あまり痛くなかったのは手加減してくれたとの事でした。

座禅の後、朝のお勤めを行い、勝田住職の法話を聞かせていただきました。その中で、天国と地獄の食事

に使う2mのスプーンの話はわかりやすく、地獄では自分で食べようとするから食べられない、天国では向かい合った相手に食べさせてあげるから自分も食べさせてもらえる、と言う奉仕の心のあり方を示すお話でした。

小食（朝食）は、お粥に梅干と塩昆布、ゴマ塩。これだけですが、私にはとても美味しく、ありがたい朝食を味わうことができました。

朝食の後には、抹茶を振舞っていただき、月心寺らしい会食となりました。その後は自由解散といたしましたが、当会員の二塚長生作の襖絵（蓮と鷺）を描いたものと、仏壇に描かれた蓮の彩色画を拝見させていただきました。久しぶりの早朝例会でしたが、機会を得ることができれば、もう一度開催したいと思います。会員の皆様には、早朝よりのご出席、有難うございました。



## 偽 と 真

曹洞宗 月心寺住職 勝 田 浩 之

「言うまいと 思えど今日の 暑さかな」  
口に出しても涼しくなる筈がないと解っていても、愚痴をこぼしたくなる様な酷暑の日々であった。ちょっと振り返ると、沖縄で正月に花が開花し、金沢では昨年同様、雪が格段に少なかった。一月の下旬、白馬のスキー場へ行った時も積雪は多いとは言えな

かった。  
昨今では気象用語には無い、ゲリラ豪雨なる言葉が出て、金沢のみならず各地で甚大な被害を出している。今や、世界中で温暖化の現象が顕著に出てきている中で、我々の生活体がどういう風に変わって行くのか気がかりだ。

「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて冷しかりけり」永平寺ご開山 道元禅師の歌である。この歌はちょうど四十年前、川端康成がノーベル文学賞を受賞した時に、ストックホルムで『美しい日本の私』と題して記念講演をされた中で引用した歌である。

これほど簡潔に又、麗しく四季折々の描写を一言で端的に表わしている歌は少なく、全く驚嘆してしまう。禅師はこの歌に「本来の面目」なるタイトルを付けておられる。

何たる意味なのか？暫く考えてみよう。  
これは、本文田地とか本地の風光と言われるもので、各人それぞれ持っている本来の姿のことである。故に春＝花、夏＝ほととぎす、秋＝月、冬＝雪なのが本来の面目であった筈が、どうも自然も人為的に破壊されつつある。一世紀前に起こった第一次、二次産業革命は日本を資本主義国家として発展をさせてきたが、人間の心は病んできた。工業化は人の暮らしを便利にし、又、楽を与えてきた。又それはそれなりに我々の生活水準を上げ、裕福にしてきたのも事実である。しかし、かえってその代償も多くなってしまった。」

鬱という病を与え、心の墮落という決定的なダメージを与えたのも少なくは無い筈である。なぜ人は素直にその本質をみようとししないのか？なぜ人は虚栄心を持つとうとするのか？

どうも昨今は、ニセモノがほんものとしてまかり通る世の中になってしまったようだ。

偽の字のルーツは、人が像を手なずけるさまをあらわしたものだそう。つまり偽は、作為を加えて本来の姿や性質を変えてしまう意味なのである。人の為と書くが全く人の為にならないことが多いのが偽なのである。

偽名、偽言、偽造、偽証。佛教では偽経なる言葉も存在する。

なら物真似や顔のそっくりさんは、偽人なる言葉で表現するのか？

人間が存在する限り、偽と真はなくなるかもしれない

ない。今、偽の反対は真と表現したが、これを信じた方がいた。「信は道の元」という言葉がある通り、真実の姿には信じられる、信じていくという心が自然に出てくるものなのかもしれない。

ならば一連の食品偽装の会社は、この信を取り戻す為には並大抵の努力では無理であろうと同情をしている。

佛教は、一人一人に幸いに、本来の面目たる仏性を持つと教える。

なぜそれが、素直に内から出てこないのであろうか？五欲に縛られ、煩惱の虜になってしまっているからであろう。

「諸の悪は、おこすこと莫れ、諸の善は、奉行せよ」と七佛通戒偈は教える。

これが一番困難な生き方かもしれない。芸術の世界でも贋物が出回れば、その作家は本物になったと評価される場合がある。

しかし、贋物はどこまでいっても贋物である。栄代の禅書「無門関」に羊頭狗肉なる言葉が出てくることは有名である。見せ掛けは立派であるが、実物は全く違うことである。

なぜか現在、社会現象になっている偽装問題ばかりが頭に浮んでしまうのである。

所詮、偽装はその人自身の偽装であり、本来の姿や性質までも覆い隠してしまう所作としか言いようがない。佛を信じることは、自分自身の小さな姿を大きな佛の鏡に写してみることである。佛とは時には自分を導いて下さる善智識であり、先生であり、親兄弟そして友人かもしれない。誰であろうと自分のいたるなさを教え、導いて下さる方は、全てが佛と言えよう。故に道元禅師は「佛とは大師なり」と言っておられる。佛を信じることができた人は、人をも信じられるようになる筈である。

ここにおいて、偽から真の世界の転換があるように思えてならない昨今である。